

2023年10月1日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 17 「死に勝利する神」

詩編103：1～5、Iペトロ1：1～5

問45 キリストの「よみがえり」は、わたしたちにどのような益をもたらしますか。

答 第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうして御自身の死によってわたしたちのために獲得された義にわたしたちをあずからせてくださる、ということ。第二に、その御力によってわたしたちも今や新しい命に呼びさまされている、ということ。第三に、わたしたちにとって、キリストのよみがえりはわたしたちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である、ということです。

イエスさまのよみがえりによって、わたしたちが受ける益、救いの果実について、この問答は三つの観点で答えています。第一は、イエスさまがよみがえりによって死に打ち勝たれ、そしてご自身が獲得された義にわたしたちをあずからせてくださると言います。ここには聖書の伝える救いの本質が言い表されていると申し上げてよいでしょう。「義」とは人間が罪ゆえに放棄してしまった神さまとのつながり、関係性のことです。聖書の伝える救いとは、義、神さまとの関係を回復することであって、その救いのためにイエスさまは救い主としてこの世に來られました。少し遡って問17には次のようがありました。

問17 なぜその方は、同時にまことの神でなければならないのですか。

答 その方が、御自分の神性の力によって、神の怒りの重荷をその人間性において耐え忍び、わたしたちのために義と命とを獲得し、それらを再びわたしたちに与えてくださるためです。

イエスさまは十字架において、罪ゆえにわたしたちが負わなければならなくなった死、神さまの怒りの重荷をすべて引き受けてくださいました。ご自身の死によってわたしたちが支払うべき罪の負債を全部支払ってくださったのです。死によって死に打ち勝ち、これを滅ぼされました。それにより死の無害化が起こります。それどころか前回のところがありました「永遠の命への入口」（問42）とさえなるのです。それが赦されて義とされることです。

ここに最初の人間アダム以来、ずっと神の民が待ち望んでいた救いがあります。それがイエスさまによって成し遂げられました。ローマの信徒への手紙に「イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです」（4：25）とあります。教会が繰り返しイエスさまの十字架とよみがえりを語るのは、そこで聖書全体の救いの目的が達成されるからです。そのことを信仰問答はまず明らかにいたします。

その上で、この救いがわたしたちとどう結びつくのか、それが第二、第三のところで行われていることです。第二は、「その御力によってわたしたちも今や新しい命に呼びさまされている」とあります。「新しい命」というのは、イエスさまのよみがえりによってもたらされた義、神さまとのつながりを持って生きることです。それはこの世の命へ逆戻りすることではありません。それなら依然と罪のままでしょう。パウロは洗礼のことに触れる中で次のように言います。「罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう」（ローマ6：2）「あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい」（ローマ6：11）この「神に対して生きる」ということが罪に死んで新しい命に生きることに他なりません。

アンドレ・ペリーという人の書いた『ハイデルベルク信仰問答講解』（新教出版）にこういう言葉がありました。「わたしたちは己が救いという急務から解放されている。今やわたしたちは、嬉々として、自由に、心から神に仕えることができるのである」（118頁）洗礼を受けてキリストに結ばれたわたしたちは、もはや救いという急務から解放されている。つまりすでに救われているということです。だから、喜んで、自由に、心から神さまに仕えるのだと言っています。わたしたちは人生の中で試練に直面したり、相変わらず罪を重ね続けることに愕然とし、果たして自分が救われているのかと考えて悩むことがあるかもしれません。けれども罪と死に打ち勝たれ、よみがえられたイエスさまに結ばれているならば、すでにわたしたちは救われています。そのことは確信を持って良いのです。わたしたちはすでに罪の眠りから目覚め、「新しい命」に呼びさまされています。

世界遺産に認定された島原の原城に行きました。島原の乱で天草四郎を総大将にする一揆軍総勢三万七千人が原城に籠城して最後は殲滅させられるという悲劇の場所です。しかしそのような弾圧や迫害を乗り越えて、250年もの潜伏期間を経て、あの大浦天主堂での「信徒発見」の出来事が起こります。激しい迫害に耐えて、どうして信仰を守り続けることができたのかを考えさせられます。この世界遺産は正式には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と言います。世界的には、250年もの間潜伏して信仰を守り抜いたことが評価されています。島原の乱以降も弾圧は続きました。薩摩にいた乱の残党も皆11歳、5歳の男の子まで処刑されています。この秋も熊本のカトリック教会が中心になって細川藩のキリシタン武士小笠原玄也家族の殉教を描いた朗読劇が行われます。子ども9人を含む一家15人が処刑されました。しかし根絶やしにしたと思っても絶やされず、信仰は生き続けました。それこそが死に打ち勝たれたよみがえりの命なのではないでしょうか。純粹にキリストの十字架とよみがえりの命を信じる信仰とその信仰に呼びさまされ、信仰に裏打ちされた人々の生活がそこにありました。あの闇のような戦国の時代に、自由に喜んで心から神さまに仕える命に触れて、人々は信仰を貫きました。

そこには信仰による希望があります。第三に「わたしたちにとって、キリストのよみがえりはわたしたちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である」希望があるからこそ、この世の試練を耐え忍ぶことができます。今日はペトロの手紙を読みましたが、この手紙は各地に散らされた離散の信仰者を励ます目的で書かれています。ペトロもまたイエスさまを捨てて逃げ出した苦い過去がありました。けれどもイエスさまはペトロに言われました。「わたしはあなたのために信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」（ルカ22：32）それがよみがえりの命です。どんなにつまずき倒れても、もう一度、立ち直って誰かを力づける。自分にはそんな力はないのだけれども、よみがえりの命がそうさせるのです。その命をわたしたちはすでに生き始めています。

天の父よ。イエスさまのよみがえりによって罪と死に打ち勝たれ、わたしたちのために新しい命を与えてくださる恵みを感謝いたします。どうぞイエスさまに結ばれて新しい命に呼びさまされていることを信じ、それにふさわしく歩むことができますように整え導いてください。どうかこの困難な時代をも希望を持って歩むものとさせてください。主の御名によって祈ります。アーメン。